

今後の柳瀬川回廊のあり方について
<答申>



平成 29 年 11 月 21 日
柳瀬川回廊事業推進検討委員会

答申にあたって

清瀬市では、柳瀬川を、清瀬市の「緑と水の拠点」として位置づけ、柳瀬川流域で利用者がレクリエーションを楽しみ、自然とふれあうことのできる水辺空間の創造を目的に、平成 18 年に「柳瀬川回廊構想」を策定しました。以来、多くの方の努力により、水辺、みどり、親水施設、文化財をつなぐ遊歩道の整備が進められてきました。

平成 28 年でこの事業開始から 10 年を迎えることから、10 年を振り返っての事業の推進状況の検証、今後のあり方について検討するために柳瀬川回廊事業検討委員会が設置されました。市長から委嘱を受けて、委員会では現地視察を交えつつ、柳瀬川回廊構想策定時からの課題とその達成度合いの確認、寄附された土地の活用方法、今後の回廊のコースのあり方、回廊の核をなす雑木林や水辺のみどりの管理のあり方、施設や広報のあり方などについて幅広く検討してきました。

この度、検討結果がまとまりましたので答申いたします。

平成 29 年 11 月 21 日

柳瀬川回廊事業推進検討委員会
委員長 福嶋 司

答申①

第3次清瀬市長期総合計画において、現在の都市構造を基礎に、市民の生活を支える住居・商業等の都市機能の集積と魅力ある拠点形成を図るなか、崖線の緑が連なり、豊かな水と緑が残されていた柳瀬川流域は「緑と水の拠点」として位置づけられました。そして、「柳瀬川回廊構想」を策定し、親しみと潤いのある水辺空間をもつ柳瀬川流域一帯の河川や崖線の緑地を保全するだけでなく、水辺、緑、親水施設、文化財を遊歩道でネットワーク化することにより、水と緑の回遊空間を創出し、個性的で魅力あるまちをめざしてきました。

まず、10年間の施策評価として、課題として挙がっていた散策路の整備、回廊コースの誘導サイン、駐車場、インフォメーションコーナーなど、回廊の基本施設が順を追って達成されている一方、インフォメーションコーナーの内容や使い方の充実、市民協働の参加者の高齢化、初期設備の劣化などといった課題がある。それらの課題を通じて、柳瀬川回廊のコースに周辺の文化財や自然を取り入れ、清瀬らしい地域資源を多方面にアピールすることによって、柳瀬川回廊に興味を持ってもらうこと、利用していない人にも利用してもらえるようにすること、最終的に、市民や利用者が地域への愛着を持ち、積極的に関わりを持つようになってほしいというのが、委員に共通する「柳瀬川回廊事業のあり方」である。

次に、「故伊藤氏寄附地の活用方法」について、柳瀬川崖線緑地（台田の杜）に隣接する寄附地まで拡大し、一体的な整備を図ることを提案する。台田の杜の南に隣接する部分は、寄附地の中では最も大きく、約0.8haあるため、現在は崖線緑地が大半を占める台田の杜と現在の利用方法を合わせた活用を考慮し、全体を3つにゾーニングし、交流広場、花畑、農園とすることを提案する。その他2か所は、将来の台田の杜全体のバランスを考えて、駐車場、台田の杜に植樹または補植するための苗圃、体験農園とする。

以上を踏まえ、今後のあり方の例を挙げる。その他は、別紙「柳瀬川回廊の今後のあり方について 報告書」に記載する。

1) 興味を持ってもらうための施策

- ・市民参加しやすいイベントの開催
樹木調査や下草刈り等の軽作業、クヌギ、コナラ等の苗木の育成と雑木林再生のための補植、萌芽更新実験地のモニタリングなど。
- ・回廊コースの追加
文化財、名木、貴重種が残る緑地など、回廊コースの付近にある地域資源を

つなぐ。回遊性を維持して文化財や自然景観を楽しむ「追加コース」、回廊コースから外れる周辺の文化財を「枝コース」で取り入れて紹介する。

- ・インフォメーションコーナーの充実

簡易的な説明リーフレットの配布、関連するパンフレットや自然保護団体の会報などの掲示を進め、利用しやすくすること。また、ボランティア活動の場として、説明員の役割を担ってもらい、あるいは柳瀬川回廊と一緒に歩いて案内してもらおうといった、市民主体の取組みを検討すること。

2) 利用者を増やすための施策

- ・「台田の杜」周辺へのトイレ新設

中里六丁目市有林や台田の杜など、植生豊かな崖線が続いているため散策客が多く、南側を公園として整備していくことも考慮して利便性を上げること。

- ・ウォーキングなどの目安として使える距離表示の新設

安全面に考慮しつつ、100m程度を目安に道路ペイントなどを利用して距離を分かりやすく示し、散策以外でも回廊を利用できるように距離表示の設置。

3) 柳瀬川回廊を維持・管理するための施策

- ・既存の案内板・サインの修繕

劣化が見られるサインや案内板の修繕を進めるとともに、定期的なメンテナンスの計画を立てること。

- ・河川地域での清掃など、ボランティア活動の充実

ボランティア団体の高齢化、それに伴う参加人数の減少を補うため、市は市民との懸け橋になり、市民が参加しやすい取組みを検討していくこと。

- ・植栽が可能な場所への植樹

回廊の景観を維持・向上させていくために、植樹後の管理まで考慮して、植栽地の管理者と合意を取って植樹を進めること。

市におかれては、今後、この答申をもとに継続して施策を進め、利用者の裾野を広げていくこと、柳瀬川回廊への愛着を持ってもらうこと、そして、市民協働につなげていくことが大事である。柳瀬川回廊を次世代に引き継いでいくために、今後の管理にあたっては、地域特性を踏まえた市民に親しまれる良好な姿となるよう、その発展を期待する。

答申②

別紙「柳瀬川回廊の今後のあり方について 報告書」のとおり。